

## 2024年度 長野県精神保健福祉士協会研修会及び実践・研究報告会

日時：2024年10月5日(土) 14時00分～16時00分

開催方法：リモート

### 【当日スケジュール】

13:30～14:00 受付  
14:00～14:10 会長あいさつ  
14:10～15:50 実践・研究報告会  
15:50～16:00 閉会式

### 【実践・研究報告会】

座長 東條 知子氏

NPO 法人ハートラインまつもと（松本市障がい者基幹相談支援センター）

\* 順番は申し込み順です。発表順ではありません。

1	発表者	三井克幸（NPO 法人ウィズハートさく）
	テーマ	「ヴァージニア・サティア、その思想と実践」
	発表要旨	アメリカ合衆国の精神科ソーシャルワーカーで、「家族療法の母」と呼ばれるヴァージニア・サティアの思想と実践についての研究を報告する。サティアは日本において『合同家族療法』という本が翻訳されているのみで、その全体像はまだ知らていない。当研究では、サティアやその仲間たちが書いた未邦訳の文献を活用しながら、サティアの思想と実践を日本語で紹介している。また、現在、日本で実践されているソーシャルワークが参照軸としている、ナラティブ・アプローチやストレングス・モデルの源流となる「関係論的思考」や「シード・モデル」についても探求している。これらの研究を報告したい。
2	発表者	土井まゆみ・赤澤佑太（社会福祉法人絆の会）
	テーマ	4本柱で支えた絆の会あゆみ 職員の立場から「利用者の経験を奪ってはいけない」
	発表要旨	絆の会の理念は 「様々な困難（障害）を抱えながらも、安心して地域で暮らすことができるよう環境を整え、また、その人の目標（夢）が少しずつ実現できるようお手伝いします。そして家族の理解・ボランティアの協力・スタッフの支援が重なりあうことで、様々な場面で当事者の力が発揮されることを目指していきます」 と始まり、利用者、家族、ボランティア、職員の4本柱で法人は成り立っている。今回、4本柱の一つである職員が「利用者の言葉の表面だけで判断せず、真のニーズを汲むこと。また、利用者には料理は難しいと決めつけずにチャレンジする機会があれば、生き生きと取り組む姿に出会えるとの経験から支援は与えるのではなく、利用者と一緒に考え、話し合っその人の目標や夢に近づいていく」と実践から学んだことを伝える。

3	発表者	宮原 朱美 (医療法人友愛会 千曲荘病院)
	テーマ	地域連携による包括的な退院支援
	発表要旨	当院は病床全 239 床中 48 床の精神科救急病棟を有し、月に約 25～30 名程度の入院を受け入れている。そのため多様な生活環境についての相談に応じており、退院支援においては同居家族を含め包括的な支援を要するケースも多い。高齢両親や支援拒否など世帯全体に課題があり医療や福祉に中々つながらないケースも多いのではないだろうか。今回、同居の高齢両親も含めて地域支援者と連携し、退院支援を行なった事例について報告する。
4	発表者	三並拓司 (大塚製薬株式会社)
	テーマ	精神保健福祉士×医薬情報担当者(MR)が実践するアウトリーチ
	発表要旨	医療提供施設で医薬品の営業をするMRが精神保健福祉士を取得し、実際に地域で実践したアウトリーチの内容を報告します。 アウトリーチの内容 飯山市:「いじめ・不登校防止」頭痛で悩まない学校づくりを養護教諭から 飯山市: 高血圧未治療患者を受診勧奨する地域の取り組み 中野市: 基幹病院精神科医と自治体保健師の連携 また、私が所属する大塚製薬株式会社は各自治体と包括連携協定を締結し、地域が抱える健康課題に対して支援を行っています。メンタルヘルス領域では、「にも包括」のサポート支援を行っており、今後、長野県精神保健福祉士協会と一緒に取り組みができれば、他県の事例を提示しながら、ご提案いたします。
5	発表者	原 広賢 (訪問看護ステーション デューン長野)
	テーマ	訪問看護サービスに福祉の視点を取り入れる
	発表要旨	訪問看護ステーションにおいて、精神保健福祉士が「間接的に利用者様の QOL 向上(サービスの質向上)に関与する」ことを目標とし、社内向けに取り組んでいるソーシャルワーク実践について報告する。 具体的には、精神保健福祉士の所属がない拠点向けに定期的にケースカンファレンスを開催し看護師と福祉の視点について共有。多職種連携による支援の充実について、拠点管理者への満足度調査をもとに効果について考察した。 その結果、サービスの質向上・業務の円滑化・多職種連携について過半数以上の拠点が効果を実感したという結果となった。 この実践から、間接的に利用者様のQOL向上(サービスの質向上)に関与するという目標に対し、ある程度の効果が期待できると推測できる。

\*発表時間は1演題あたり15程度(質疑応答を入れて20分)